

当協議会による酒蔵ツーリズムの推進について（趣意書）

現在、「地方創生」、「観光立国から観光先進国へ」という国の政策のもと、日本産酒類（日本酒、焼酎、泡盛及び日本ワイン、ビール等）は、海外の人々から高い評価を受けており、輸出が増加しているだけでなく、その醸造ストーリーや生産場所である「酒蔵」にも、国内外からの関心が高まっています。

また、地産地消としての地域の食文化をはじめ、歴史・文化等の日本の地域資源と日本酒を組み合わせ、地域の魅力アップの取り組みが多く地域で行われています。

当協議会は、国内外の人々を対象とする酒蔵ツーリズムの振興を通じて、日本産酒類（日本酒、焼酎、泡盛及び日本ワイン、ビール等）の認知度拡大と価値向上を図るとともに、酒蔵とその周辺地域の観光振興及び経済的発展に寄与することを目的としています。

未曾有の事態となった新型コロナウイルス感染拡大により、世界各国では海外旅行ができなくなりました。しかしながら海外旅行の需要はあり、訪問先の候補として日本は上位に挙がっています。政府の掲げた2030年には訪日外国人観光客6,000万人の目標達成には、受け入れ態勢の整備が重要です。また新型コロナウイルス感染症の影響により、日本国内の魅力は再度見直す機会となりました。日本の重要な観光資源を活用した酒蔵ツーリズムに対する関心も高まっています。訪日外国人観光客に正しい情報を伝えるため、酒蔵説明の英語版案内ツールの整備、酒蔵を案内する通訳案内士の研修等受け入れ態勢の整備事業に取り組むとともに、日本人観光客に向けた取り組みも取り組んで参ります。

当協議会では、今後、私どものプロジェクトにさらに多くの関係者の方々に参画を頂くと共に、協議会の機能も強化して参りたいと考えております。

【参考】 日本酒蔵ツーリズム推進協議会に関して

■日本酒蔵ツーリズム推進協議会とは

「利き猪口の中には、日本が詰まっている」と言われるように、お酒造りにはそこに関わる地域の方々の物語がたくさん存在します。日本酒蔵ツーリズムとは、日本酒・焼酎・泡盛・ワイン・ビールなどの酒蔵を巡り、地域の方々と触れ合い、お酒を味わう。そして、そのお酒が育まれた土地を散策しながら、その土地ならではの郷土料理や伝統文化を楽しむ旅行のことです。

世界中のお酒ファンの方々に、その土地でしかできない「酒蔵ツーリズム体験」を是非楽しんでいただきたいという願いから、平成 28 年 11 月に当協議会が設立されました。平成 28～30 年度の 3 年間は、観光庁の「テーマ別観光による地方誘客事業」の一つとして、当協議会の事業も採択されておりました。平成 31 年度からは、公益社団法人日本観光振興協会のテーマ別観光推進事業の一環として当協議会の事務局を運営し、酒蔵ツーリズム事業の継続・発展を目指しております。

■日本酒蔵ツーリズム推進協議会のビジョン

日本における「酒蔵ツーリズム」は、国内外の認知が十分ではなく、全体としてはまだまだ創成期にあるといえます。

世界中から多くのワインファンのリピーターを獲得し、ワイナリーだけでなく、宿泊、飲食、交通など地域の幅広い産業に大きな利益を生み出している「ナパ」や「ボルドー」のワインツーリズムのように、当協議会では、国内はもとより、世界中の酒ファン、ワインファンに対して、その土地でしか体験ができない「酒蔵ツーリズム」による体験を通じて感動、満足をして頂き、販路の拡大や輸出の増加にも努め、地域の様々な産業に対し、持続的に収益をもたらすことができるようなスキームを提供していきたいと考えております。

また、各地域が各々の特色を活かしたユニークな「酒蔵ツーリズム」を開発、展開していくことにより、地域相互に誘客を促進すると共に、インバウンド誘客、特に地方への観光客の拡大に努め、さらなる地域振興の実現に繋げていきたいと考えております。

このように、当協議会では、酒蔵をはじめとする「酒蔵ツーリズム」に関わる様々なステークホルダー構成員がネットワーク化されることによる連携・相乗効果等により、上述の目的を達成したいと考えております。

■公式サイト <https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/>

※酒蔵ツーリズムは佐賀県鹿島市の登録商標です。

以 上